

は多くの種類があり、かつ、それらの含有成分(タンパク質やアミノ酸)は培養条件で大きく変化すること(Tanaka & Takimoto 1975)を考え合わせると、今後の研究によってウキクサの養蚕飼料化が可能になるものと思われる

謝 辞

本実験の遂行にあたり、京都大学理学部植物生態研究施設のノートバイオトロンを使用させていただき、蚕飼育の御指導を下さった清水勇先生、ならびに、多大の御協力を下さった京都大学農学部教授 滝本敦先生に深く御礼申し上げます。

なお、本研究は財団法人覚悟会の昭和57年度研究助成を受け、1982、1983年に行なわれたものである。

引用文献

Bhanthumavin, K. and McGarry, M. G. (1971) *Wolffia arrhiza* as a possible source of inexpensive protein. *Nature* 232:65.
 Hillman, W. S. and D. D. Culley, Jr. (1978) The uses of duckweed. *American Scientist* 66: 442-451.
 河口宏太郎 (1975) 新食糧資源「ウォルヒア」化学と工業 28 (10):92-95.

松原藤好・加藤 勝・林屋慶三・児玉礼次郎・浜村保次 (1967) 人工飼料による家蚕の無菌飼育. *日蚕雑* 36:39-45.
 松本 聡 (1981) ウキクサによる富栄養塩吸収とその利用. *化学と生物* 19:594-600.
 松高寿子・松野隆男・平岡保子・加藤 勝 (1977) カイコ胚期の環境温度がキャベツ葉粉末の人工飼育に及ぼす影響. *生物環境調節* 15:47-52.
 Reddy, K.R. (1984) 水生植物の栄養塩除去能力. *水草研究会会報*. 18:13-15. 国井秀伸 訳
 高橋 成人 (1981) ウキクサ—その繁殖様式を中心として— バイオマス 生産と変換(上)pp.203-213. 柴田和雄・木谷収編 学会出版センター.
 田中 修 (1981) バイオマス資源としてのウキクサ. *水草研究会会報*. 5:2-5
 Tanaka, O. and A. Takimoto (1975) Suppression of long-day flowering by nitrogenous compounds in *Lemna perpusilla* 6746. *Plant & Cell Physiol.* 16:603-610.
 Tanaka, O., Y. Nasu, D. Yanase, A. Takimoto and M. Kugimoto (1982) pH dependence of the copper effect on flowering, growth and chlorophyll content in *Lemna paucicostata* 6746. *Plant & Cell Physiol.* 23:1479-1482.

○会員移動

<新入会>



<住所変更>



○投稿のお願い

水草に関するさまざまな原稿をお待ちしています。

[送り先] 〒657 神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学教養部 角野康郎宛

水草研究会会報 No 21 (1985年9月)

[Bulletin of Water Plant Society, Japan]

発行 水草研究会(神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学教養部生物学教室内)

編集 角野康郎

印刷 中村印刷株式会社

(神戸市灘区友田町3-2-3)